



東日本大震災 被災者支援 北海道民医連ニュース

2011.3.31

宮城（坂病院・宮城野の里）・岩手（大船渡市の6避難所）で 3隊に分かれて支援

第4次支援隊15人が、昨日30日から本格的な活動を開始しました。今回から岩手県への支援が始まり、坂病院（4人）宮城野の里（高齢者施設 2人）岩手県大船渡市（9人）の3チームに分かれての支援活動となっています。

大船渡市支援チームからの報告

私たちが受け持つのは、大船渡市の南東部にある6ヶ所の避難所です。

避難所の医療支援の調整は、岩手県の保健師さんが全市一括で統括していますが、範囲が広すぎて調整困難なことから、盛岡医療生協が申し出て、全日本民医連の医療支援によって、この地区を担当することになりました。

盛岡医療生協から川久保病院事務次長さんと、地元出身のMSWがすでに入っています。MSWの方は4月から大船渡市社会福祉協議会に転職が決まっていた。被災時、ご両親は逃げて無事でしたが、実家は津波で流され全壊。彼自身も被災者です。

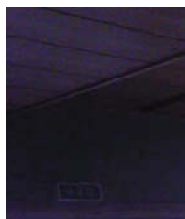
もう一人のボランティア医師を含めて、現在のチームの陣容は、医師3人、看護師4人、介護福祉士1人、事務3人の11人体制です。

私達の拠点となる赤崎漁村センターには、130人が避難しています。医務室での診療、避難所の方々のケア、他の5箇所の避難所への往診と3チームに分かれて活動しています。

避難所各室を回ると、高齢者が多く20日間に及ぶ避難生活で疲労が蓄積しています。「風邪が治らない」「眠れない」等の訴えがありました。乳幼児の家族と高齢者が同じ部屋にあり、生活時間の違いや同室者への気兼ねで悩んでいるお母さん、塞ぎ込んでしまった子どももいます。今日は国立病院の心のケアチームが入ってくれました。

高齢者の多くは生活不活発状態になっています。午後からは、遠藤介護福祉士が体操を呼びかけました。「やってくれるだろうか、迷惑にならないか」と不安でしたが、高齢者向け体操、若い人向け体操とも、部屋中ほとんどの方が参加。話しかけても返事の無い方も参加してくれました。「体が温まった」「楽になった」と喜ばれました。

往診で避難所を訪問すると、防災無線で診療開始が案内されます。すると周辺からも次々に受診に訪れ、午前のチームは午後1時過ぎにようやく帰ってきました。



被災地・支援活動の写真を 外来待合室に掲示しています

道北・一条 支援に行った坂牧医師や野口看護師、安田薬剤師が送ってくれた現地の写真を、一条通病院、クリニックの待合に掲示しました。

写真 上：昼食中の支援隊 下：喜ばれた体操